

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600826		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームなごみ1F		
所在地	苫小牧市字錦岡521-444		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0173600826-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることを掲げています。この理念に基づき、日常生活支援はもとより、入居前に通院されていたかかりつけ医療機関を入居後も継続して職員が通院同行させていただき、生活の様子や変化を上申・相談し、包括的なケアを実践しています。施設周辺は自然環境に恵まれていることから、周辺を散歩したり、畑作りや花壇作りで野菜や花の育成を楽しむことができます。建物については、中心に中庭があり、ホールや各部屋に自然光が入り、明るい設計になっております。また、トイレも4箇所設置しており、お身体の状態に合わせて利用していただくことができます。入居者様のみならず、ご家族様も安心していただける介護サービスが提供できるよう、常に意識・知識の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には北星公園、錦大沼公園、キャンプ場と多くの自然に恵まれた環境にある。近くには同法人が運営する「障害者支援施設」と「グループホームむつみ」があり、行事、災害対策などを連携して行い、事例を共有しながら質の高いケアに努めている。「住みなれた土地こそ苫小牧で、すこやかに」という理念の下、利用者職員は地域のイベントと一緒に楽しみながら家族のように過ごせる雰囲気を出している。職員は「いつも明るく、優しく安心していただけます。」という利用者の言葉を基に、利用者寄り添いながら日々のケアに繋げている。町内会や市福祉課担当者との協力関係が築かれており、また、苫小牧市災害対策の火山砂防フォーラムに参加して、災害時の避難経路、避難場所の話合いをして協力体制を築いている。運営者・管理者は、職員の資質向上と事故防止に常に心がけ、苫小牧グループホーム連絡会研修、東地区包括支援センター研修、内部研修、更に今後、看取り支援を見据え看取り研修等に積極的に職員に参加を促し、サービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が携帯する名札の裏に理念が書かれており常に意識しながら業務に努めています。また、玄関に理念を掲げ、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごして頂けるよう支援しています。	事業所理念「住み慣れた土地、ここ苦小牧でおだやかに」を玄関に掲示し、各職員の名札の裏面にも書き込み携帯し、いつでもどこでも理念を確認し、職員会議で再確認して職員で共有しケアにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う敬老会、推進会議には、町内会より数名の方に参加していただいております。また、町内会の催し物等には入所者様に参加させて頂き、交流を図っています。	町内会に加入し、町内会報誌で情報を得ている。住宅が少ない地域ではあるが、町内会館で地域住民との交流や地域の行事に参加、町内会の除雪支援もある。法人主催の秋祭りには地域住民が参加し利用者や交流している。地域住民の見学訪問もあり、日々の交流がある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対し介護等の情報の提供や施設見学の相談があった際は、随時対応できるようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市職員の他、地域包括、町内会と入所者様、入所者様のご家族に参加していただき、サービス等の状況を説明させていただいております。町内会やご家族から頂いた意見はサービスに反映させている。	市介護福祉課職員、地域住民、利用者家族等が参加して、運営状況、利用者の様子や行事などをテーマに開催し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。樽前山の噴火に備え、災害対策の火山防災フォーラムについて報告して、事業所、地域、近隣市町との協力体制の話し合いをしている。	運営推進会議は、家族、地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味・役割を果たす会議として位置づけられている。利用者家族の運営推進会議参加はありますが、今後新規入居者数名の予定があるので、家族に運営推進会議の趣旨を伝え、多くの家族が参加され、意見をサービス向上に、活かされるよう期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が参加するグループホームの会議、研修会には、可能な限り出席し意見交換の機会を設けている。またその都度不明な点があれば電話等で確認している。	行政担当者とは事業所の実情を報告し、介護業務や災害対策など相談、双方向の情報提供や意見交換を行い、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを活用し、職員間で意識の共有を図っている。また、研修に参加した職員からの伝達講習でも再確認をしている。	各種の研修に参加して身体拘束の具体的な行為の認識を深め、身体拘束をしないケアを実践している。入所間もない利用者の外出傾向は、職員が外出に付き添うケアに取り組んでいる。夜間は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルや資料を活用し、内部研修を開催し、意識を共有している。			

グループホームなごみ1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見制度に関して理解し、必要な入所者様には利用して頂けるよう支援していく。現在利用している入所者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に説明し、不明な点がないか確認し、安心していただけるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、要望を聞くことができるようにしている。苦情や要望には直ぐに対応をしている。	利用者の意見、要望は日々のケアで聞き取り、家族からは来訪時に意見等を聞いている。また、家族には年2回発行の会報誌、職員手書きの状況報告で利用者の状況を報告し、アンケートを実施して家族の意見等をくみ取り、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常会話を通して意見を聞いている。また、話しやすい環境を作れるよう努めている。	職員の意見は日常のケアの気づきを会議で話し合い、運営に反映している。職員は施設長、管理者と話しやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望や有給休暇を取得できる体勢になっている。職員の残業はほとんどない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は幅広く参加し、現在の介護保険制度や他施設の状況など情報を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で他グループホームと連携している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接で本人からの聞き取りや、居宅・病院等で情報提供を受けプランを作成、入居日からサービスを提供している。信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接段階でご家族にお会いし、現状、要望・不安に思われていることとお聞きし、不安等が解消できるようホームの受け入れ態勢等を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、主訴・解決したいニーズを導き出しケアプランを作成し対応している。プランはご家族に説明し、承諾を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様は自分ができることをして皆さんの役に立っていると感じる生きがいとなり、能力に合ったお手伝いなどしていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活の様子を定期的にお知らせするとともに、必要な物品の変更や購入、また、受診後の状態等の連絡をし、ご家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の友人や担当ケアマネジャーが気軽に面会に来られる雰囲気になっている。	馴染みの美容室には家族が同行し、知人、友人が来訪した場合は、居室でゆっくりできるように配慮し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士が良い関係で過ごせるよう、職員が間に入り、コミュニケーションをとっている。また、入所者様同士で声を掛け合ったり、お世話をしあったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者に対しても入院中のときは、お見舞いに行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の声掛け時の表情や会話の中から要望や意向を把握し、職員間で話し合いケアに生かしている。	日々のケアや記録、家族からの情報を共有し、利用者の意向の把握に努め信頼関係を築いている。入所、間もない利用者の不安な思いは、家族に落ち着くまで何度も来所をしてもらうなど、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や面接時の情報は職員間で把握している。また、いつでも確認できる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方は、一人ひとり生活リズムができています。できること、できないこと、今後考えられる状態等職員間で話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に要望や気づき等をお聞きし、ご本人・ご家族の意向を取り入れた計画書を作成している。計画書はご家族の了承を得て、署名捺印を頂いている。	日々の記録や担当職員からの課題の提示を基に職員全体で検討し、家族と話し合いをしながら具体的な介護計画を作成している。介護計画は6か月毎に作成し、急変時はその都度利用者の状況に応じた介護計画を作成し家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア日誌に毎日の様子や状態、気づきを記録し、変更は申し送りノートに記載し情報を共有している。記録等からプラン作成、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出、外食にも状況に応じて、柔軟に対応させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催しに参加させていただき、歌や楽器演奏など楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医は入所後も継続している。ご家族が通院同行できない状況であれば職員が同行する。主治医からの指示は職員間で共有し支援を行っている。	本人、家族が希望するかかりつけ医に家族同行で受診している。家族が付き添いできない場合は職員が同行し受診支援をしている。かかりつけ医の往診や、一週間に1度の看護師の訪問もあり、適切な医療支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が状態確認、相談に応じている。また、訪問診療を受けている入所者様には職員が同席し指示を受けている。指示書はご家族に送付している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時は職員が同行し、ご家族と一緒に病状や治療方針など説明を受けている。また、次の受診予約を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所申し込み時に、ホームでは取扱いができないため、急変時は受診、救急搬送の可能性があるので理解していただいている。延命については時期を見ながら確認している。	入居時、本人、家族に重度化や終末期における事業所として可能な支援内容について説明し同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にはAEDを設置している。急変時の対応はマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署が行う避難訓練を定期的実施しており、避難方法も訓練時に指導を受けている。ホーム周辺に民家はなく、直ちに協力は得られないが、消防署と同法人の施設が近くにあり、協力できる体制になっている。	マニュアルに基づき、年4回近隣の法人施設と合同訓練を実施している。また、事業所独自で年2回の訓練をしている。備蓄品は事業所や法人で備蓄している。火山フォーラムでは地域や事業所の避難経路、避難場所など、近隣市町村と協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けとトイレ利用時や着脱時など、プライバシーの確保に努めている。	利用者の尊厳に繋がる接遇研修を実施し、利用者への声掛けが馴れ合いになりすぎ、誇りやプライバシーを傷つけていないか常に注意をしている。個人情報も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話をする中で、ご自分の思いや希望を話されることがある。傾聴し、アドバイスを行いながら自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、一人ひとりの能力やペースに合わせてケアすることを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や衣類の買い物など、ご家族の協力を得て希望に沿った対応を行っている。		

グループホームなごみ1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が出るよう、配膳時にメニューを説明している。また、誤嚥せず安全に摂取していただけるよう食事形態の工夫をしている。おやつや水分摂取後に食器拭きをお願いすることがある。	利用者の状況に合わせ、とろみの食材や麺類を短く切ったり、きざみ食などを提供し、食事を楽しむことの出来る支援をしている。3時のおやつも利用者の楽しみとなっており、利用者は能力に応じ食器拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に相談しながら献立を作成する。自力で摂取できる形態に調理をし、糖尿病食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し、口腔ケアを行っていただいている。口腔ケアの拒否や口腔内に異常がある入所者様には、歯科医院を受診し、口腔清掃や治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でトイレを利用する方は現在1名、一人ひとり排泄パターンがあり、時間ごと声掛けしトイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、表情や態度に気をつけながら、声掛けや誘導によりトイレでの自立排泄を支援している。衛生用品の使用は利用者の状況に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の飲水量は記録し、1000cc以上は飲用して頂いている。また、一人ひとり排便パターンがあり、記録を見ながら下剤を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者様のペースや体調に合わせて入浴していただいている。	利用者の体調に配慮しながら、週3回入浴できるよう支援している。入浴できない利用者に対しては、状況に応じて清拭を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに生活パターンがあり、ご本人のペースに合わせて過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時処方された薬については、必ず説明書に目を通し、用途・副作用についても理解できている。(説明書は保管)服用後は状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入所者様は自発的に家事を手伝って頂ける。自室で塗り絵を楽しまれたり、ホールで歌謡曲を楽しまれ、気分転換になっている。		

グループホームなごみ1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、美容院や買い物・外食等楽しんで頂いている。	散歩をしたり事業所にある花壇を眺めたり、畑の野菜の成長状況を楽しんだり、日光浴を兼ねて外出の支援をしている。また、外食や買い物、美容院へは家族の協力を得て支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想が出現する入所者様も居られ、現在お金の管理はご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者様から、家族の面会がないので心配だ、という声が聞かれると、ご家族に電話を入れ、直接話しをしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース・自室は毎日清掃し、清潔に過ごしていただいている。ホームは自然に囲まれており、静かで適度な光があり、落ち着いた環境。季節ごとの飾り物を展示し、季節の変化を感じて頂ける。	玄関に入ると、吹き抜けの中庭から明るい日差しが四方にそそぎ、明るい共用空間の廊下は中庭を眺めながら歩き廻れる空間である。全体が広く居間のソファや食堂の椅子でくつろぐ利用者は、台所から調理の音や匂いを感じながら過ごせる居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書や、塗り絵を楽しむため一人になりたい方は自分でお部屋に行かれる。ホールで過ごされる方はご自分の席やソファが決まっております、居場所ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に大事にされているものや馴染みの物をできるだけ持ち込んで頂いている。	寝具付きベット、テレビ、クローゼットが備え付けられ、家族の写真や使い慣れた身の回りの品を持ち込んで居心地良く暮らす工夫をしている。家族が宿泊する場合は会議室を宿泊場所として利用出来るよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が進行している方も困らないよう自室ドアには名前を貼り、トイレは「便所」と書いて貼っている。		